



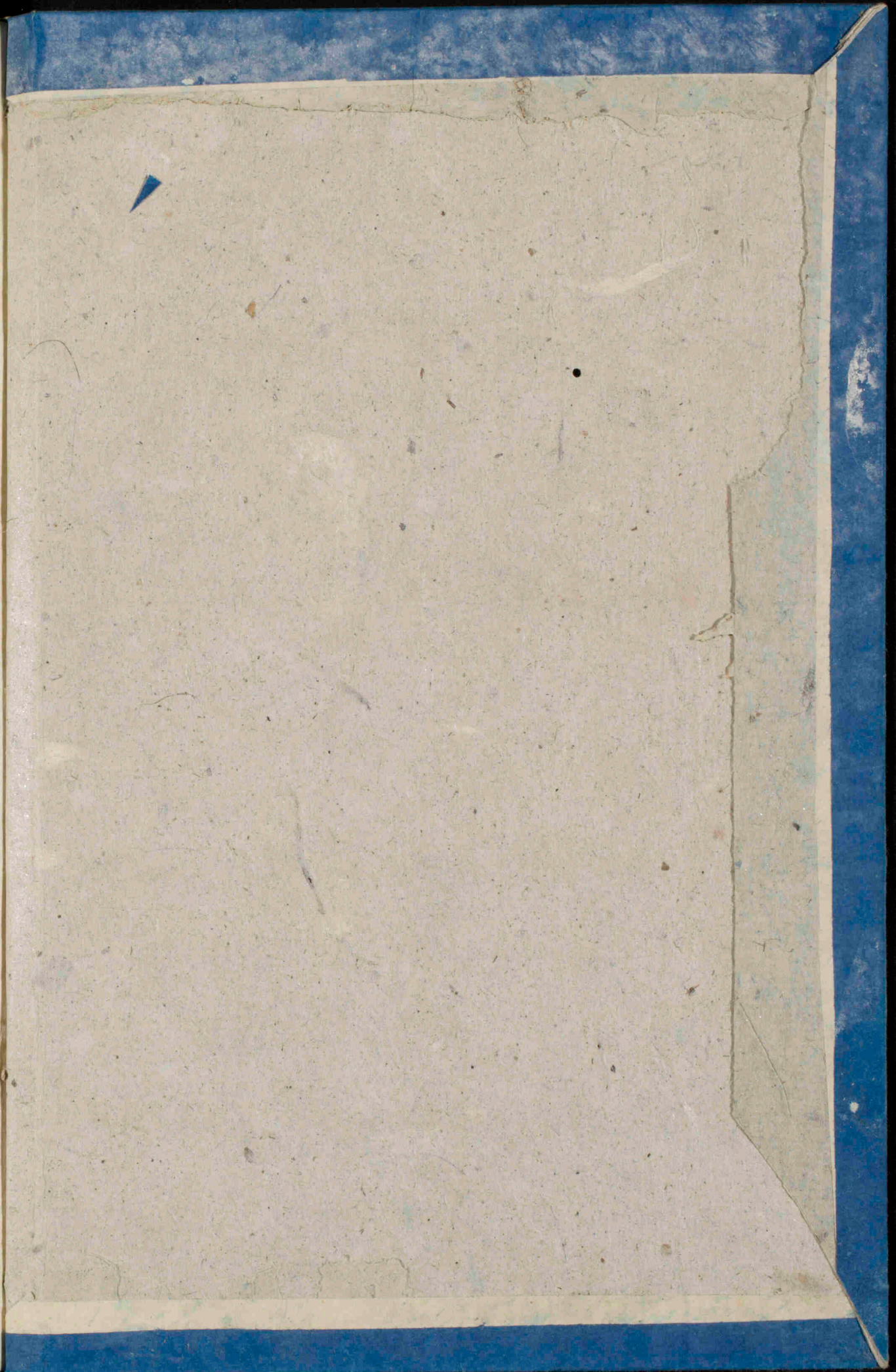
F 13
カ-21



始蒙美舍蘇州

翰音蒙

明崇禎壬午年秋



491.1
K0-2
13

No. 790



富士川文庫
2440

明治五年申年發閱

解剖訓蒙

啟蒙義舎藏版



解剖訓蒙卷之十三

米利堅ハ解剖學教頭約瑟列リ第著

日本ハ文部省出仕村治重厚譯

發音及呼吸器論

喉頭ハ發音ハ呼吸器ハ論

頂ハ位ハ舌根及ハ舌骨ノ下ハ在リ此器ハ婚期ハ

至レハ整然ト發育ハ特ニ男子ニ於テハ甚ク増

大ニ頭部前面ハ中央ニ著シク突起ヲ呈ス世

之所謂アダハ否ハ是ナリハ後方ハ咽頭ニテ分界シ

解剖訓蒙

卷之十三

パールス、プリマ、エス、ハ
ラアルテリ

上方ハ之ト交通シ、下方ハ氣管内ニ開口ス構造
ハ韌帶ニテ維持スル軟骨ニシテ、筋ヲ附シ、血管
及ヒ神經ヲ具ヘ、粘膜ニテ裏包ス

喉頭軟骨

喉頭軟骨

カ、イ、テ、レ、レ、ン、ヂ、キ、ス、ヲ、ハ、甲狀軟骨、環狀軟

骨、會厭軟骨、及ヒ披裂軟骨ヨリ構成ス、而テ甲ノ

三個ハ、兩側匹同ノ單片ニシテ、餘ハ對片ナリ、以

下之ヲ揭示ス

甲狀軟骨

タイ、ロ、イ、ド、カ、ハ、就中最大ニシテ、二個

ノ翼狀板ヨリ形成シ、喉頭ノ上前部ニ在リ、其板、

甲
アダム、モルシス、
ラス

甲
コルニア

前方ハ、兩側ヨリ進テ相ヒ會合シ、後方ハ、互ニ離

去セリ、男子ニ在テハ、婚期後ニ至リ、其兩板會合

ノ位線、上部ニ於テ銳ク突出シ、下部ニ至ルニ從

ヒ漸次ニ退却シテ鈍圓ト為ル、婦人及ヒ幼童ニ

在テハ、突出微小ニシテ、上下平等ニ鈍圓ナリ

件ノ翼狀板ハ、方形ニシテ、斜傾セル内外面ト、圓

縁トヲ具ヘ、其外面ニハ、斜ナル起線ヲ有シテ、諸

筋ヲ附着シ、後隅ハ、上下共ニ、延展シ、鈍キ突起ニ

終ル之ヲ角ホ、ス、トト云フ、其上方ノ者ハ、下方ヨ

リモ長シ、上下ノ縁ハ、共ニS字狀ヲ呈シ、特ニ上

甲
カーチレゴ、クリ
コイ、デユース

縁ニ於テ尤モ著明ニシテ左右會合スル處、即チ
全骨ノ正面ニ於テ深截痕ヲ造為セリ

環状軟骨クライコイド、カハ、其形狀恰モ封印指

環ノ如ク、前骨ノ下モニ占位シ、氣管ノ第一環ニ

連接ス前方ハ細狹ニシテ、後方ニ至ルニ隨ヒ、漸

次ニ廣大ト為シ、下縁ハ地平ニ進行シテ、稍ヤ波

状ヲ為シ、上縁ハ前方ヨリ後方ニ登リ、項ニ至リ、

後部ニ於テ一對ノ凸出セル楕圓突起ヲ有シ、披

裂軟骨ニ联接ス

此軟骨ノ兩側ニ於テ、外方ニ稍ヤ隆起セル輪状

甲
エピグロテック、カー
チレジー

ノ小面アリ、以テ前骨ノ下角ニ聯関シ、後面ハ

幽微ナル縦起線アリ、之ヲ左右ニ分ク、是レ胃管

ノ附着スル處ニシテ、其各側ハ淺潤ナル凹窩ヲ

以テ後環裂筋、茲ニ填充ス

會厭軟骨エピグロテックハ粘膜ニテ被包セル纖維軟骨

板ニシテ、其形略ホ匙ノ如ク、喉頭孔ノ上一ニ突出

シテ、嚥下ノ時ニ之ヲ蓋閉シ、尋常靜止スル時ハ

其位置斜ニシテ、舌骨ノ体後ニ在リ、其遊離端又

舌根ノ方ニ屈曲シ、其匙形ノ廣端ハ、遊離ニ狹端

ハ展延シ、纖維彈力組織ノ一帯ニ由テ、甲状軟骨

甲 カチレシ子スアリ
テノイデス

乙 コルニキユム、ラ
リンキフ

ノ兩板會合セル上隅ニ附着シ其遊離縁ハ薄ク
シテ稍ヤ翻轉シ前面即チ口腔ニ向ヘル方ハ凸
隆シ後面即チ喉頭孔ニ向ヘル方ハ凹陷セリ
披裂軟骨^{アリ}テ^レノ^イト^カハ他骨ニ比スレハ細
小ニシテ環状軟骨ノ頂上ニ於テ其後方ニ位シ
其形三稜柱ノ如ク三側面ヲ有シテ屈曲シ其基
礎ハ陷入シテ環状軟骨ノ突起ト聯関シ尖端ハ
后方ニ曲リ^顆ノ軟骨ヲ戴キ軟帶ヲ以テ固定
シ後面ハ凹陷シテ披裂筋ヲ容ル前面ハ凸隆シ
テ甲裂筋ヲ附シ内面ハ他側骨ノ同面ト對向シ

甲 プロセシマスキマリス

乙 プロセシマシマカリス

丙 キユ子一ホトムカ
チレシ

兩面ノ間截痕ヲ餘シ粘膜ニテ被包ス
右披裂軟骨基礎ノ三隅角中外角^甲ハ環裂筋ヲ附
着シ前角^乙ハ延辰シテ聲膜ヲ附着ス^大
爰ニ屢披裂軟骨ノ上方ニ於テ^小軟骨アリ披裂
會厭皺襞中ニ達ス

喉頭ノ軟骨ハ會厭ヲ除クノ他皆チ真軟骨ニシ
テ軟骨膜ヲ以テ被包シ年齒ノ長スルニ隨ヒ甚
シク化骨スヘキ性ヲ具ヘリ若シ會厭軟骨ノ包
膜ヲ離レハ無數ノ不整ナル小窩ヲ顯ハシ宛モ
腐蝕スルカ如キ見望ヲ呈スベシ是レ細小ノ葡

葡萄狀腺ヲ納ル處ナリ

喉頭關節及靱帶

甲狀舌骨膜クイコハインハ、稍ヤ弛キ纖維彈力組織ニシテ甲狀軟骨ノ上縁ト舌骨ノ内面ヲ繫定ス其正面ハ強厚且ツ尤モ緻密ナレモ側方ハ菲薄ナリ

甲狀舌骨靱帶クイコハインハ、圓柱狀ノ纖維強力索ニシテ甲狀軟骨ノ上角ト、舌骨大角ノ末端トヲ繫定ス通常、其中部ニ於テ丙一顆ノ軟骨ヲ含ミ、時有テ真骨ニ化スルコトアリ

甲 クイコハイン

乙 クイコハイン

丙 クイコハイン

環甲關節

クイコハインハ、喉頭ノ各側ニ

於テ、甲狀軟骨ノ下角ト、環狀軟骨ノ側部トノ間ニ在テ、關節膜ニテ裝裏シ、囊靱帶ヲ以テ圍擁ス此關節ハ、甲狀軟骨ノ下前方ノ運動ト、其反對運動トヲ許容ス

環狀披裂關節

クイコハインハ、杵臼關

節ニシテ、喉頭ノ各側ニ於テ、披裂軟骨ノ凹面ト、環狀軟骨ノ凸面トノ間ニ在リ是レ亦々關節膜ニテ裝裏シ、囊靱帶ヲ以テ圍擁ス此關節ハ、披裂軟骨ノ各方ノ運動ヲ許容ス

甲
リガメンタ、タイロエ
ビダロテキユム

甲狀會厭軟帶 タイロエ、ピダロテキユム ハ、纖維彈力帶ニシテ會厭軟骨ノ狹端ヲ、甲狀軟骨ノ會合隅角ノ上部ニ附着ス

乙
エズラチ、ウカリス

聲膜 ウカリス、エズラチ ハ、彈力組織ヨリ造構シ、環狀軟骨上縁ノ正面、及ヒ側面ヨリ起リ、上方ニ進ミ、披裂軟骨ノ基礎、及ヒ甲狀軟骨ノ會合隅角ノ下部ニ達シ、其下部ハ、尤モ強勁ニシテ、喉頭ノ正面ヨリ窺ヘハ、環狀軟骨ト、甲狀軟骨ノ間ニ當リ、目視スヘシ、其側部ハ、菲薄ニシテ、甲狀軟骨ノ側面トノ間ニ、甲裂筋アリテ、分隔セリ、其上縁ハ、稍々厚クシテ、甲狀軟骨ノ會合隅角ト、披裂軟骨基礎ノ前角トノ間ニ涉ル、此上縁ノ位置ハ、喉頭室ノ下縁ト一致シ、大抵一般ニ聲帶ト稱シ、講明ス、但シ是ハ別種特異ノ器械ト為リ、存在スルニ非ス

甲
ユルダ、ウカリス

喉頭筋 ユルダ、ウカリス ハ、喉頭ノ諸筋ハ、披裂筋ヲ除ク、他、皆十對筋ニシテ、其各側ニ位ス、以下之ヲ説明ス

乙
マス、タリコタイ
ロイ、デユス

環甲筋 マス、タリコタイ、ロイ、デユス ハ、環狀軟骨ノ正面、及ヒ側面ヨリ起リ、外後方ニ上昇シ、甲狀軟骨ノ下縁ニ附着ス、此筋ハ、甲狀軟骨ヲ下前方ニ牽引ス、蓋シ

其運動ノ中心ハ、甲状軟骨ノ下角ト、環状軟骨ノ
側面ニ於ケル關節ニシテ、成續ハ聲膜ヲ緊張ス
ルニ在リ

甲
マスキュラリコアリテ
イデユス、ホスキュス

後環裂筋 リホステリオル、マスキュラハ、環状軟骨ノ

後方ニ於テ、其各側ノ廣濶淺窩ヨリ起リ、上外方

ニ湊合シ、披裂軟骨基礎ノ外角ニ附着シ、此筋ハ、

披裂軟骨ヲ其基礎上ニテ、外後方ニ廻轉セシメ

以テ聲膜ヲ緊張シ、聲門ヲ廣ムルナリ

乙
マスキュラリコアリテ
ノイデユス、マスキュス

側環裂筋 リラテラ、マスキュラハ、前筋ヨリモ細

小ニシテ、甲状軟骨ノ側面ニ蔽ハレ、環状軟骨ノ

側方ニ於テ、其上縁ヨリ起リ、上後方ニ進シ、披裂

軟骨基礎ノ外角ニ附着ス、此筋ハ、亦々披裂軟骨

ヲ其基礎上ニテ、外前方ニ廻轉セシメ、以テ聲膜

ヲ弛緩シ、聲門ヲ廣ムルナリ

甲
マスキュラ、イロア
リテ、イデユム

甲裂筋 リカド、マスキュラハ、前筋直上ニ位シ、甲

状軟骨ノ會合隅角ニ於テ、其内面ト及ヒ、茲ニ隣

接セル聲膜ノ一部トヨリ起リ、後方ニ進シ、披裂

軟骨ノ外面、及ヒ基礎ニ附着ス、此筋ハ、披裂軟骨

ヲ前方ニ牽引シ、以テ聲膜ヲ弛緩ス

乙
マスキュラ、アリテ、イ
デユス

披裂筋 リカド、マスキュラハ、數多ク横行、斜行ノ纖維ヲ

尖端即子狹部ハ、披裂軟骨ヲ分隔セル截痕ヨリ
成ル

甲
ウエントリキユリトラ
レンジス

粘膜、喉頭孔ヨリ、其腔内ニ下ルキ、其各側ニ於テ
外上方ニ翻轉シ、一對ノ囊ヲ形成ス之ヲ喉頭室
ズ、ラントレリ、クニキス、ト稱ス、此室ハ、半橢圓形ノ匿
窟ニシテ、橢圓ノ横裂孔ヲ以テ、喉頭腔ト交通ス
其孔ノ下縁ハ、聲膜ノ上縁、即チ所謂聲帶

乙
リガメンタ、グロチ、チテ
ス、ラレー

ト一致シ、其上縁ハ、粘膜下結締織ノ蓄積スル
ニ由リ、稍ヤ突出シ、尋常假聲帶

丙
リグメンタ、グロチ、チテ
ス、ラレー

ト稱セリ

粘膜ハ、右喉頭室ヨリ下方ニ下リ、聲膜及ヒ環狀

軟骨ノ裏面ヲ被包シテ、氣管ノ粘膜ニ連接ス

喉頭腔ハ、喉頭孔ヨリ、下方ニ至リ、漸次ニ狹隘シ、

喉頭室孔ノ下縁ノ間ニ於テハ、最モ狹隘ス、之ヲ

聲門

甲狀軟骨ノ會合隅角ニ在リ、兩側ハ、聲膜縁ト一

致シ、基礎ハ、披裂軟骨ニ關係ス、聲門ノ下ニ至レ

ハ、喉頭腔、再ヒ漸次ニ廣大シ、且ツ環狀軟骨内ノ

輪狀形ニ準ス

喉頭粘膜ハ、軟柔菲薄ニシテ、帶白赤色ナリ、而テ

甲
リグメンタ、グロチ、チテ
ス、ラレー

會厭軟骨、聲膜、及ヒ環狀軟骨内ニ在テハ、固着ス
部ニ緩ル夕附着ス而テ無數ノ小葡萄狀腺、及ヒ
顫毛柱狀内皮ヲ具有セリ

會厭軟骨ノ下部ト、舌根ノ際、茲ニ饒多ノ結締織、
彈力組織、脂肪組織ヲ沈着ス、又夕披裂軟骨正面
ノ粘膜下ニ於テ、同種ノ沈着物ト、許多ノ葡萄狀
腺アリ

喉頭ノ動脈ハ、上下ノ甲狀動脈ヨリ來リ、靜脈ハ、
甲狀靜脈ノ分枝ナリ、水脈ハ、頸腺ニ入り、神經ハ、

肺胃神經ノ喉頭枝ト、交感神經ヨリ分來セリ

呼吸器論

呼吸器ハ、氣管、胸膈、及ヒ附屬ノ筋ヨリ造為ハ筋
ハ既ニ論セリ、今其他ノ者ヲ辨論ス

氣管

氣管^甲ニタラキ、又^乙ハ、圓柱狀ノ一管ニシテ、胃管

ノ前ニ在テ、頸ヲ下行シ、胸ニ達ス、乃チ第五ノ頸

椎ニ對シテ、喉頭ニ始リ、第三ノ脊椎ニ對シテ、二

個ノ氣管枝ニ分レ、終^レ其丈、畧ホ四^ノ寸、其

幅ハ、一^ノ寸、四分ノ三、乃至一^ノ寸、但シ

甲 アスベラ、アーテリヤ

乙

婦人ハ、男子ヨリモ狭小ナリ。頸部ニ於テハ、各側ニ大血管アリテ、其間ニ挾マレ、胸部ニ於テハ、胸骨上部ノ直後ニアリ。

甲
ブロンキア

氣管枝 ブロンキア ハ、氣管ヨリ起リ、左右ノ二肺ニ開

撒シ、心ノ基礎ヨリ発根セル、大血管ノ後ニ在リ。

乙
ブロンコ、デキスター

右氣管枝 ブロンコ、デキスター ハ、丈ケ、畧ホ一「イン」チアリテ、

第四ノ背椎ノ位線ニ當リ、殆ト直角ヲ為シテ、同

丙
ブロンコス、シニスター

側ノ肺根ニ進ミ、右肺動脈ノ後ニ在リ、丙左氣管枝

レフ、ト、マ、ブ、ハ、右ニ比スレハ、狭細ナレド、丈ケハ、畧

ホ二倍アリテ、第五ノ背椎ノ位線ニ當リ、大動脈

弓ノ下ヲ、下外方ニ過キ、同側ノ肺根ニ進ミ、左肺

動脈ノ後ニ在リ。

氣管及ヒ氣管枝ハ、軟骨環ノ疊續シ成ル者ニシ

テ、纖維彈力膜ヲ以テ結締シ、内ハ、粘膜ニテ裏包

セリ。

軟骨環 カ、リ、テ、レ、グ、ス、ノ、ハ、氣管及ヒ其分枝ヲ圍擁

ス、但シ後方三分ノ一ハ、缺込セリ、其外面ハ、扁平

ニシ、内面ハ凸隆ス、故ニ氣管内ニ在テハ、甚々突

出セリ。夫ノ強勁ナル纖維彈力膜ハ、每環ノ隣接

縁ヲ結締シテ、骨面ニ於テハ薄ク展布セリ。後方

甲
アンニユリ、カ、チ
レ、ジ、子、

軟骨環ノ缺込スル處ニハ、寛裕ノ纖維膜ト、横行セシ、白色ノ無紋筋纖維ノ内層トヲ以テ充填ス。氣管ノ軟骨環ノ最末ハ、其形變異シテ、兩氣管枝ノ第一環ニ準類ス、乃チ其下縁、正面ニ於テ延長シ、氣管ノ中點ニ至リ、後方ニ彎曲ス。粘膜ハ、帶白薔薇色ニシテ、平滑ナリ、然シ後方ノ膜様部ニ於テハ、茲ニ著シク粘膜下彈力組織ヲ存シ、網狀ノ束ヲ造ルニ由リ微細ノ縦起線ヲ生セリ。内皮ハ、顫毛柱狀ニシテ、生活間ハ、其毛、上方ニ向テ顫動ス。

甲
タラキ、ルエド、ガ
ロンエー、ルダラ、ラ、ラ、ラ

氣管及ヒ其枝ハ、無數ノ微細ナル葡萄狀腺ヲ具備シ、粘膜面ニ開口シ、其大ナル者ハ、後方ノ膜様部ニ埋居シ、其管孔ハ、無數微細ニシテ、著シク粘膜面ニ針刺痕ノ如ク顯ハレ、看取スヘシ、其小ナル者ハ、軟骨環ノ中間ニ位シ、亦タ明亮ニ、其管孔ヲ粘膜面ニ呈セリ。

動脈ハ、下甲狀動脈、及ヒ氣管枝動脈ヨリ來リ、靜脈ハ、甲狀靜脈、氣管枝靜脈ニ終リ、神經ハ、肺胃神經、交感神經ヨリ來レリ。

肺

甲 ヒユルモ子ス、又ニ三モ子ス

乙 ラジキス

肺^甲グロ^乙スハ、胸腔ノ各側ニ位シ、中間ニ、心臓及ヒ大血管アリ之ヲ分テリ而テ其腔内ニ存スルマ、呼吸作用ノ際、斷ヘス變換セル其容積ニ随ヒ、之ヲ充塞ス且ツ、其根蒂ヲ除クノ他、何處モ遊離シ附着スル處ナク、都テ胸膜ヲ以テ密包セリ
根蒂^乙ト^レハ、各肺ノ内側ニ於テ殆ト其中央ニアリテ、氣管枝、肺動脈、及ヒ靜脈、氣管枝、血管、神經、水脈ヨリ造為シ、胸膜ノ翻轉部ヲ以テ全包ス、右肺ノ根蒂ハ、上大靜脈ノ後方ニ在テ、奇靜脈、之ト吻交セントスル時、其根蒂ノ上ヲ超ヒ左肺ノ根蒂

甲 ホルタ、ヒユルモニス

ハ、半ハ大動脈子ノ下、半ハ、其下行部ノ前ニ在リ、右肺ノ根蒂ニハ、氣管枝最上ニ位シ、次ニ肺動脈在リ、肺靜脈ハ、最下ニ居ル、左肺ノ根蒂ニハ、最上ニ肺動脈アリ、氣管枝、其次ニ位シ、靜脈、之ニ順位ス
肺根ニ於ケル凹窩、即チ肺門^甲ハ^乙ス^イニ入テサル前ニ、氣管枝再分ス、即チ各肺ノ葉數ニ應シ、右ハ、三枝ニ分ヒ、左ハ、二枝ニ分ル、血管モ亦夕肺中ニ入ラサル前ニ分枝ス、ハ^乙ハ^イニ入テサル前ニ、肺ノ形狀ハ圓錐ニシテ、其廣濶ノ凹陷セル基礎

ハ、横隔上ニ坐シ、其圓光ハ、第一肋ノ位腺ヲ起ヘ
 頸部ニ達ス、其外面ハ、凸隆シ、其内面ハ、凹陷シテ、
 心臟ノ方ニ向ケリ、其後縁ハ、長且厚ニシテ凸隆
 シ、脊椎柱ノ傍ニ位ス、前縁ハ薄銳ニシテ、心ノ周
 圍ニ疊襲シ基礎ノ縁ハ、銳削ニシテ、其外方部ハ、
 横隔ノ起根ト、胸腔ノ下縁トノ間ニ於ケル、稜立
 ナル狭隙中ニ入ル
 肺ノ重量、及ヒ容積ハ、年齢、两性、軀幹ノ大小、健恙、
 動靜等ノ許多ノ事故ニ由リ、一定セズ通例大人
 ニ於テハ、其重量、凡ソ二ポント半、容積、凡ソ三百

甲ロビン

立方¹インチトス其丈徑ハ、尤モ大ニシテ、後部、殊
 ニ長シ、而テ右肺ハ、左ヨリモ短縮スレド、廣濶ニ
 シテ稍ヤ巨大ナリ

各肺ハ、共ニ後方ニ於テ、尖頂ノ直下ヨリ分裂シ
 始メ、前方ニ斜行シテ、基礎ノ前部ニ及ビ右肺ハ、
 猶ホ他ニ第二裂アリテ、第一裂ヨリ起リ、前方ニ
 斜行シ、其前縁ニ至ル、故ニ右ハ三葉^甲、左ハ二

其中葉ハ、尤モ小ニシテ、下葉、尤モ大ナリ、左ハ、二
 葉ニ分ル、其下葉、尤モ大ナリ、左肺ノ葉間ニ、正面
 ニ於テ、巨大ナル稜立セル截痕アリ、是レ生活間

胸壁ニ觸レ、心ノ悸動ヲ覺ユル部位ニ當ル
 肺ハ、嬰兒ノ尺ハ、帶白薔薇色ナレ尺、齡ノ長スル
 ニ隨ヒ灰白赤色、或ハ鉛色ニ變シ、帶藍黑色ノ點
 線ヲ以テ彩飾ス、此變色ハ、肺ノ組織中、漸次ニ黒
 色素ノ細粒ヲ沈着スルニ関ス、而テ肺ノ表面ハ、
 滑澤ニシ、光輝アリテ、滿面ニ、著シク富稜ノ外圍
 ヲ有セル物ヲ顯シ、以テ其構造ノ葉狀ナルヲ示
 セリ
 肺ノ彈力ハ、甚タ勁クシテ、胸腔ヲ開ケハ、凋縮シ
 テ、凡ノ其前積ノ三分一ニ至ル、而テ復々人功ヲ

甲ロビユリ

以テ、容易ク吹膨セシムヘシ、其質ハ、海綿様ニシ
 テ水上ニ浮游シ、指間ニ於テ捻スレハ、一種ノ音
 ヲ發ス、未タ呼吸機ヲ始メサル前、即チ胎兒ノ肺
 ハ、水ヨリモ重クシテ、其中ニ沈没ス亦タ肺中血
 積滲漏ヲ起シ、多少堅實スル疾病ニ於テハ、同一
 ・形態ヲ顯ハシ、健体ノ肺ヲ截取シ、之ヲ壓搾セ
 ハ、赤色ノ泡起セル液ヲ滲出ス、是レ血液及空氣
 ヲ混交セル粘液ナリ
 肺ノ構造ハ、無數細小ノ富稜ナル第一小葉
 甲ロビユリ
 相聚テ同形ノ第二小葉
 乙ロビユリ

甲
イニルヨユスヨシキ
ク交ヲツシキ

ヲ成ス肺ノ表面ニ富稜ナル物ヲ頭ハスハ是レ
 其第二小葉ニシテ精密ニ検査スレハ亦々第一
 小葉ノ外圍ヲ目視シ得ヘシ而テ各葉共ニ結締
 織ヲ以テ繫約セリ弱年ニ於テハ此葉明亮ナル
 也加年スルニ随ヒ漸ク不明トナル
 第一葉ノ構造ハ全肺ノ造構ニ異ナラス小氣管
 枝氣路ニ開口シテ氣胞ト交通セリ
 氣胞^エセルヤハ呼吸ノ代空氣暢達セル極末ノ藏處
 ニシテ富稜圓圍ノ囊ナシ其大小ハ同一ナラス
 深部ニ在ル者ヨリモ表部ニ近キ者ハ巨大ナリ

乙
セルリユス又シキ
コラエレー

然レモ凡ソ一ライシ十分一ノ直徑ヲ以テ中等
 トス且ツ齡ノ老ルニ随ヒ増大シ又々喘息家ニ
 於テハ甚ク擴張シ胞間ニハ稍々分歧セシ一個
 ノ總氣路アリテ各胞ト交通シ小葉ノ出口ニ於
 テ小氣管枝ニ連ル各胞ハ鱗狀内皮ヲ以テ裝裏
 セル基礎膜ヨリ構造シ中間ニハ纖維彈力組織
 アリ結定ス肺臟ノ彈力性ハ是レ之ニ歸ス其外
 部ハ毛細血管ノ密網ニテ圍擁ス是レ肺動脈ノ
 末枝ト肺靜脈ノ起端トノ中間ニ在ル者ナリ
 小氣管枝^アル^ロキ^スハ二個ノ氣管枝肺中ニ入

甲
フロニキ

リ、吻合スルヲナク細分シ成ル者ニシテ、終ニ第一葉ニ止リ、爰ニ於テ、氣胞間ノ氣路ニ通シ其構造ハ、氣管及ヒ氣管枝ノ如クナレド、其軟骨C字狀ノ環ヲナサズ、數片ニ分レテ管圍ニ散布シ、且ツ其筋纖維連續セル一層ヲ為セリ而テ每管分岐スル處ニ於テハ、其軟骨半月狀ヲ呈シ、以テ管口ヲ開潤セシムルノ布置ヲ取ル此管漸ク細小ト為ルキハ、軟骨隨テ減少シ終ニ全ク喪ハレシ唯筋纖維ヲ交ヘタル纖維彈力膜ト、裡面ノ粘膜トヨリ形成スルノミ

肺動脈

ト、ヒ、ア、エ、ル、モ、ナ、レ、ハ、氣管枝ト伴行シ枝分シ

テ、氣胞周圍ノ毛細管網ニ終リ、心ヨリ黯赭ノ血液ヲ受ケ肺ニ輸送ス

肺靜脈

ト、ヒ、エ、ル、モ、ナ、レ、ハ、自上ノ毛細管網ヨリ始

リ、小氣管枝ニ伴行シテ、終ニ肺ヲ辭シ鮮紅含氣

ノ血液ヲ心ニ輸ス

氣管枝動脈

ト、ヒ、ア、エ、ル、モ、ナ、レ、ハ、前者ニ比スレハ、細

小ニシテ、大動脈ヨリ來リ小氣管枝ト伴行シテ、

專ラ其組織ヲ營養ス

氣管枝靜脈

ト、ヒ、ア、エ、ル、モ、ナ、レ、ハ、同名動脈ノ血液ヲ還

ル

流シテ、右ハ、奇靜脈ニ終リ、左ハ、上半奇靜脈ニ終
 肺ノ水脈ハ、其數許多ナリ、表在ノ者ハ、其根蒂ニ
 會湊シ、深在ノ者ハ、小氣管枝ニ伴行シ、共ニ氣管
 ノ分岐、及氣管枝ノ周圍ニ、位セル水脈腺ニ入ル
 弱年ニ於テハ、此腺ノ外望、他處ノ者ニ異ナラサ
 レ、高年ニ至ルニ、隨ヒ肺ヨリモ暗黒色トナリ
 且ツ屢々石灰様ノ沈着物ヲ含有ス
 神經ハ、肺胃神經、及ヒ交感神經ヨリ來リ、前後ノ
 肺叢ヲ造為ス、中ニ就テ、後叢ハ、巨大ニシテ、兩叢

共ニ氣管枝及ヒ肺血管ノ分枝ニ隨行ス

胸膜

胸膜 ウブレ ハ胸腔ノ各側ヲ裝裏スル清膜ニシテ、

肺根ヨリ翻轉シ、其表面ヲ被覆シ、緊密キ下組織

ニ固着ス、乃チ其所在ニ從テ、肋骨胸膜

横隔胸膜 チダクイ フヤ ウラ グマ 縦隔胸膜 ナシ ア ス チ

ラ、肺胸膜 ト ピ ユ レ ウ ラ ナ レ ノ 名 アリ 又 タ 此 膜 肺 根

ヨリ一ノ皺襞ヲ作テ、下モ横隔ニ達ス、之ヲ肺韌

帶 ピ リ ユ ル モ ナ ト ト 云 ハ 膜 腔 ノ 裡 面 ハ 常 ニ 稀 薄

ナル清液ニ浴シ、肺面ヲ滑利シテ、其呼吸間ノ運

甲 プレウロム

乙 プレウロム

丙 プレウロム

氣管ノ上端ノ前側部ヲ圍擁シ、喉頭ノ各側ニ達ス、其功用未タ知ルヘカラス、其構造ハ、一對ノ側葉ヨリ成リ、其下部ニ於テ横峽ス、タランス、ウルアリ、之ヲ聯結ス、外面ハ凸隆シ、内面ハ凹陷シテ、結締織ヲ以テ氣管、及ヒ喉頭ニ附着ス而テ胸舌骨、胸甲狀肩胛舌骨ノ三筋ニ蔽ハレ、後縁ハ、頸部ノ大血管ト關係セリ

甲
コニユスラテラリア

側葉ハ、ラテラリアハ、長楕圓ニシテ、下部ハ、上部ヨリ

モ厚ク、尋常丈ケハ左右齊シカラス、然レモ、畧ホ二インチ許ニシテ、氣管ノ第六軟骨環ヨリ、甲狀

甲
レウトル、グラジユ
ラタイロイデア

軟骨ノ下部ニ達ス屢々横峽ヨリ一ノ突起ヲ生シ、上方ニ進ミ、舌骨ニ達シ、纖維帶ヲ以テ之ニ附着ス、間、此帶中筋纖維ヲ含メリ

乙
トニカ、プロリア

腺ノ重量ハ、通例一乃至二グラムアリテ、婦人ニ於テハ、男子ヨリモ巨大ナリ、此腺殊ニ婦人ニ於テハ、腫大シ易ク、所謂甲狀腺腫ナル疾病ヲ致ス腺中ハ、脈管甚タ富饒ニシテ、外部ハ、菲薄ナル纖維膜ヲ被リ、内部ノ構造ハ、纖維組織ノ間隔アリ

天網狀ヲ為シ、其眼中ニ許多ノ微細ナル密閉胞ヲ充填セリ、其胞ハ、有核セルノ一層ヨリ成立セ

甲
メシブエ、プロ、リア

解
言
言
蒙

卷
之
三

三

ル、内皮ヲ以テ装裏シタル基礎膜ヨリ構造シ、琥珀色ノ粘稠液ヲ含メリ、
動脈及ヒ靜脈ハ、上下甲狀動靜脈ノ枝末ナリ、水脈ハ、數多ニシテ、皆十頸腺ニ交通シ、神經ハ、肺胃神經及大交感神經ヨリ來レリ

胸腺

胸腺タイモスハ、暫時ノ器械ニシテ、其用、亦夕知

ル可ラス、胎兒ノ時ヨリ、生後第二歳ニ至ルマテ其大サヲ増シ、此期ヲ過キレハ、萎縮シ喪ヒス、其位置ハ、胸骨後、前縦隔腔ノ上部ニ在テ、頸部ニ達

乙
コルピユス、タイミ
キユム

シ屢々甲狀腺ニ及ス、其下ニハ、心囊、大動脈、左無名靜脈、及ヒ氣管アリテ、其上ニ安置ス、其形チハ扁平三角ニシテ、一對ノ不同ナル側葉ヨリ構造シ、淺紅色ニシテ、大小輕重ハ、年齒ニ隨ヒ異ナルノミナラス、同年ノ者ト雖、人々差等アリ、但シ初生ニ於テハ、其丈ケ畧ホ二「イン」チ幅ハ下部ニ於テ一「イン」チ半、厚ハ二乃至三「イン」チ重ハ凡ソ半「イン」ストス

其外部ハ、菲薄ナル纖維膜ニテ被包シ、造構ハ、許多ノ層平稜立セル小葉ヨリ成リ、結締織ヲ以テ

解
言
言
蒙

卷
之
三

三

甲
リサルウラ イルムセ
タイモス

乙
セル又ウエシク

定シ、外見、恰モ葡萄状腺ニ似タリ、各側葉ハ通
 例其内ニ、大小一定セサル腔隙ヲ存シ、毎小葉内
 ノ空窠ト交通ス、自上揭示スルノ他、此腺ノ造構
 ハ、未タ確定セサルナリ、小葉ノ空窠ノ厚壁ハ腺
顆ニ、即チ粗大ノ顆粒ヨリ成リ、甲状腺、或ハ葡
 萄状腺ノ胞ニ比スヘシ腺顆ハ、遊離核、及ヒ有核
 セルヨリ造為シ、血管、其内ニ貫通ス、小葉ノ空窠
 及ヒ側葉ノ腔隙ハ、乳様ノ稠厚液ヲ充テ、許多ノ
 核及ヒ有核セルヲ混在セリ、
 動脈ハ、内乳房動脈、心囊動脈、下甲状腺動脈ヨリ來

リ、靜脈ハ、左無名靜脈ニ通シ、水脈ハ、内乳房腺ニ
 終リ、神經ハ、肺胃神經、大交感神經ヨリ來レリ

解剖訓蒙卷之十三終

...

解剖訓蒙卷之十四

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著

日本 栖雲松村矩明 翻譯

泌尿器論

泌尿ノ器ハ之ヲ泌別スル腎臟キッド子其排泄管

ナル輸尿管ユル其貯蓄器ナル膀胱ダブ其泄路

ナル尿道ユレヨリ成立ス

腎臟

腎臟キッド子ハ二個ノ腺ニシテ深ク腰部ニ占位

シ脊椎柱ノ各側ニ在リテ右ハ左ヨリモ稍ヤ高

甲
リ子ス

甲
カ。フシユラエツホ

夕居ル其位置ハ、正ニ腰椎ノ最初二個、或ハ三個
 卜、背椎ノ最末卜ニ對向シ、上方ハ、互ニ近暱シテ、
 其ノ血管卜、尋常許多ノ脂肪ヲ含蓄セル、一塊ノ
 弛キ結締織卜ニ由テ、爰ニ固定サル、其前面ハ、
 後面ヨリモ凸隆シ、上端ハ、下端ヨリモ巨大ニシ
 テ、副腎ヲ附着セリ、
 右腎ノ正面ハ、肝臓、十二指腸ノ下行部、及ヒ上行
 結腸ニ親接シ、左腎ノ正面ハ、脾、降胃、下行結腸ニ
 觸抵ス

腎ハ、滑澤黯赭色ノ扁平楕圓体ニシテ、内側ニ截

甲
ホルタリニス

乙
タニカ。プロリス

間ヲ有ス、形状極テ特異ニシテ類似スル者アレ
 ハ、通常腎形卜稱スルニ至ル其大小輕重ハ一定
 セサレ、然シ長サ凡々四「イ」チ、廣サ二「イ」チ、
 厚サ一「イ」チ、重サ四「ラ」ンスヲ通例トス
 彼ノ内側ノ截間ハ腎門ハト稱シ、血管、神經、排
 泄管ノ出入スル處ニシテ腎竇ハト稱シ、ト交通ス
 其外部ハ、都テ結締織及ヒ脂肪ヲ以テ被包スル
 ノ他、亦タ固有ノ纖維膜コト稱シ、ト被レリ此
 膜ハ、纖維組織ヨリ成レル一層ニシテ、稍ヤ強固
 且ツ菲薄ニシ、輕ク下部ノ腺質ニ附着シ、腎門ヨ

甲 ソブスデシキア、ユルカ
 リス、ススキユヨ
 乙 ソブスデシキア、スシ
 ラリス
 丙 ピラミツ、ヲダ、マル
 ピキ
 丁 ハ、ビラー

リ腎竇ニ入り其底ニ於テ、血管及ヒ排泄管ノ包
 膜ト連續ス
 其廣徑ニ隨ヒ之ヲ縱斷セハ、燦然ト二質ヨリ成
 立スルヲ見ルヘシ、即チ外方ノ顆粒状ニ見ユル
 部ヲ、其所在ニ係リ皮様質甲
 其内部ハ髓様質乙
 ニ配列シ、腎三稜体丙
 皮様質中ニ包裹サレ、其尖頭ハ腎乳頭丁
 ト稱シ腎竇内ニ突出ス
 腎三稜体ハ、大小及ヒ負數一定セス、通常十個ヨ

甲 子、五、テ、リ、ユ、リ、ニ、テ、リ、

リ十五個ニ至ル、且ツ時有テハ二個湊合シ而テ
 不整ナル三列ニ布置シ、其基礎ハ、各、外方ニ向キ、
 尖頭ハ、各、腎竇ニ輻湊ス三稜体ハ、其基礎ヲ包裹
 セル皮様質トヲ合セ、皆十是レ昔日胎児ノ時ニ
 結締織ヲ以テ繫約セシ許多ノ分葉ニ當ル、然レ
 凡、後來着合シ分明ナラサルナリ數多ノ下等動
 物ニ於テハ、各葉著シク分斷シ、生涯殘留ス、且ツ
 屢々成長セル人ノ腎ニ於テモ、亦々其表面ニ昔
 時分葉ノ痕跡ヲ多少明亮ニ顯スヲアリ
 腎質ハ、專ラ細尿管甲ス、ユリニ左口ルト稱スル分泌

管ト、血管ト、之ヲ束定セル分外僅少ノ結締織ヨ
 リ構造ハ尿管ノ末端孔ハ、數百個アリテ、每乳頭
 ノ頂ニ於テ見ルヘシ此末孔ヨリ後ヘニ逐蹤シ
 見ルニ、三稜体中ニ於テハ、尿管ノ進行、殆ト真直
 ニシ、唯稍ヤ披撒ス、且ツ屢々銳角ヲ以テ分枝シ、
 其大サヲ减小ス其基礎ニ近ク稍ヤ枉屈シ、繼テ
 最モ蜷曲シテ、終ニ皮樣質中ニ於テ囊状ノ膨大
 ニ止リ、腎球ヲ匿藏ス
 尿管ノ直行ト蜷行ハ、腎質ノ二様ニ分レ見ユル
 ノ原由ニシテ、其壁膜ハ板状内皮ヲ以テ装裏セ

甲ニルボスキユラマルヒキ

ル薄脆ナル基礎膜ヨリ成リ、囊端ニ至リ腎球上
 ニ翻轉セリ

腎ハ、甚タ血管ニ富ミ、血液ヲ受クル處ノ動脈、此
 器ニ比スレハ、分外巨大ニシテ、其門ニ近ク數枝
 ニ分レ、再ヒ分枝シ、其實ニ入りテ、乳頭ノ間ヨリ
 其質中ニ竄入ス而テ皮樣質中ニ至リ、猶細分シ、
 終ニ最モ較著ナル脉叢ヲ作ル、之ヲ腎球甲ルリ十グ十ロ一
 メルト稱シ其形ハ、球状ニシテ、凡ソ一「インチ」百
 分一ノ直徑ヲ有シ、密ニ録錯蜷曲セル毛細管ヨ
 リ成リ、尿管ノ囊状膨大中ニ蘊藏サル、每球ヨ

リ血管再々外出シ、細尿管ノ進行ニ沿テ、互ニ吻合シ、其間ニ於テ毛細管網ヲ為ス、之ヨリ腎靜脈發射シ、腎ノ外面ヲ循テ、三稜体ノ基礎ニ向ヒ輻湊シ、次ニ動脈ノ進行ヲ追慕シ、腎實ニ出テ、終ニ一幹ト為テ腎ヲ去ル

甲 ペルギス、リナリス

腎ノ排泄管、即チ輸尿管ハ、其門ニ於テハ、歴平セ
 ル漏斗状ノ囊ノ如シ、之ヲ腎盂甲 ペルト 稱ス、其廣
 口、腎實内ニ於テハ二三部ニ分レ、亦夕此部細分
 シ、數個ノ小漏斗ヲ為ス、之ヲ腎盞乙 カスリト 稱ス、每
 盞中ニハ、一個或ハ二個ノ乳頭突出スルヲ以テ

乙 インクニジビユラ

尿管口ヨリ滴瀝スルノ尿ハ、先ツ腎盞ニ受ケ、腎
 盂ニ輸シ、之ヨリ輸尿管ヲ下行スルニ至ル
 腎盞、腎盂、及輸尿管ハ、皆チ其構造同一ニシテ、外
 層ハ纖維膜、次層ハ、無紋筋膜、裡面ハ、粘膜ヨリ成
 ル、其纖維膜ハ、腎盞ニ在テハ、乳頭ノ基礎ニ於テ、
 腎實ノ纖維包膜ト連續シ、筋膜ハ、腎盂ヨリ内方
 ニ至レハ、漸ク菲薄ト為リ、乳頭ノ基礎ニ於テ消
 失ス、然ルニ粘膜ハ、猶乳頭上ニ翻轉シ、尿管口ニ
 於テ其壁膜ニ聯結ス
 腎盂ハ、其門實内ニテハ、血管ノ后位ニ在リ、腎靜

甲トクトスエリキ

脉ハ門前ニテハ同名動脉ノ前ニ位シ、竇内ニテ
 ハ二脉ノ枝極混雜ス神經ハ、交感神經ノ腎叢ヨ
 リ來リ水脉ハ、腰腺ト交通ス
 輸尿管^トユレハ、各腎ヨリ起ル圓柱状ノ一管ニシ
 テ尿ヲ總貯器ナル膀胱ニ運輸スル者ナリ其長
 サハ十五乃至十八インチアリテ、驚翅管大ノ直
 徑ヲ有シ斜ニ内方ニ下行シテ骨盤腔ニ入り前
 下方ニ屈曲シ膀胱底ニ至テ其内ニ開口ス其進
 行ノ間腹膜ヲ被ラス其後ニ在テ結締織ヲ以テ
 弛ク近部ニ附着シ前面ニハ精系血管アリテ交

又セリ初メハ大兔筋ノ上ニ安位シ次ハ腸骨血
 管ト交叉シ其後ハ兩性ニ隨ヒ腹膜ノ直腸膀胱
 皺襞或ハ直腸子宮皺襞中ニ包藏サルハ膀胱ノ
 近邊ニ來レハ男子ニテハ輸精管ノ外側ニ又接
 シ婦人ニテハ子宮頸ノ側傍ヲ沿行シ終ニ膀胱
 ノ壁膜ヲ斜ニ穿破シ尿道孔ヨリ後方ニ一「イン
 子半ヲ隔テ且ツ對側ノ者ヨリモ同距離ヲ隔テ
 開口ス

纖維膜ハ強韌ニシテ其色帶白淺紅ニシ、筋膜ハ
 蒼白無紋ノ縱橫纖維ヨリ成リ下行スルニ隨ヒ

稍ヤ増厚シ粘膜ハ腺ヲ有セス、内皮ヲ具備ス、但
 シ其セルノ形状大小ハ著シク異ナレリ、
 腎盂及ヒ輸尿管ノ動脈ハ、腎、精系、膀胱ノ諸動脈
 ヨリ分來セル細枝ニシテ、神經ハ、交感神經ヨリ
 來レリ、
 尿 イユラハ、腎ヨリ泌別シ、膀胱ニ潑蓄セル透明琥
 珀色ノ流体ニシテ、其化學成分ハ、甚タ複雑ス、就
 中最モ確證タル成分ハ、尿素 ユリト 稱シ、一種ノ
 有窒物ナリ

膀胱

甲
シカユリナリカ

膀胱

ユリナレ
ブレダ

ハ、筋膜ノ囊ニシテ、其用ハ、腎ヨ

リ泌別セル尿ヲ貯蓄ス、其大小形状ハ、膨脹或ハ
 萎縮ノ景況ニ随ヒ同一ナラハ乃チ空虚ナルニ
 ハ、扁平三角体ノ如ク耻骨縫合ノ後ニ於テ其尖
 端ヲ上方ニ達シ、骨盤腔内ニ在リ、稍ヤ膨脹スル
 ニハ、圓形ヲ取り、尚ホ骨盤内ニ在リ、然レモ、十分
 膨脹スルニハ、楕圓形ニ為リ、其尖頭、耻骨ヲ超ヘ
 テ下腹部ノ腹膜前腔ニ達ス、其最長ノ直径ハ此
 前腔ヨリ下后方ニ達シ、肛門ニ向ク然レモ、其頂
 ヨリ尿道ニ終ル、末端マテノ中軸ハ、稍ヤ屈曲セ

婦人ニ於テハ、其形男子ヨリモ圓久球状ニ近シ
而テ其容積ハ、各性共ニ、凡ソ一「ポイント」ヲ入ル
ヘシ

甲シテハ、リオルヲ、ドス

尖頭ソム即チ其上端ハ「白線」アリニ、リアノ後方ヲ上

行セル纖維索ニ由テ臍ニ聯結セラル、蓋シ此索

ハ、胎児ノ氏、アラントトイフト稱シ、腹外ニ在位セ

ル一囊ト、膀胱トノ間ニ涉レルコトヲユコト管ノ塞

滅セシ者ナリ

乙シテハ、リオルヲ、ドス

底ベトス、又、ハ、膀胱ノ最廣部ニシテ、男子ニテハ、

直腸ノ下端ト接シ、婦人ニテハ、腔ト觸抵ス

尖頭ト底トノ中間ヲ「体」ボト稱シ、後面ヨリモ

前面尤モ凸隆ス

底ノ前方ニ於テ、漏斗状ニ細狭スル處アリ、之ヲ

頸キト稱ス、男子ニテハ、殆ト地平ニシテ、底ハ

其位腺ノ稍ヤ下方ニ達ス、然シ婦人ニテハ、斜ニ

前方ニ下リ、器械ノ尤モ下部ヲ占メリ

膀胱ノ位置ハ、腹膜ノ翻轉、及ヒ直腸膀胱莢膜、且

シ其底ト前面ヲ近部ニ附着スル結締織、塞滅セ

ル臍動脈、ユラコス、及ヒ尿道ト連續セル頸ニ由

甲セル名キス

テ維持ス

直腸膀胱莢膜ハ耻骨ノ后方ヨリ攝護腺及ヒ膀胱

頭ニ行涉シ、膀胱前鞅帶アンテリオリガマ

ト稱スルニ個ノ小突起ヲ造ル又々之ト連續シ

肛門舉筋ヨリ、底側ニ翻轉スル者ハ、膀胱側鞅帶

ラテラールリガメンヲ為セリ

膀胱ノ所謂假鞅帶ナル者ハ、腹膜爰ニ翻轉シ造

レル皺襞ニシテハ、直腸膀胱皺襞トレク

ホクヅト稱シ、直腸ノ側面ヨリ膀胱ノ側面ニ涉

行シ、婦人ニテハ之ヲ子宮膀胱皺襞ユテロクシ

甲
ア
カ
セ
ミ
リ
ユ
レ
ス

ト稱シ、子宮ノ側面ヨリ膀胱ノ側面ニ至ル此皺

襞中ニハ、輸尿管、膀胱ノ血管、及ヒ神經、且ツ壅塞

セル臍動脈ノ初端ヲ包藏ス而テ此動脈ト、ユラ

コスト伴行シ、臍方ニ進ム氏、亦タ小皺襞ヲ成セ

リ

腹膜ハ、直腸或ハ子宮ヨリ、膀胱ノ後部、側部、及ヒ

尖頭ニ翻轉シ、次ニ骨盤ノ側方、及ヒ腹腔ノ前壁

ニ至ル膀胱ノ腹膜ヲ被ラサル部ハ、薄脆ナル織

維組織ノ一層ヲ以テ被覆ス、是レ即チ直腸膀胱

莢膜ノ一部ニシテ、腹膜下結締織ト連續セリ若

シ此器膨脹スルニハ、其頂ヲ以テ下腹部ノ腹膜
 ヲ高ク舉上スルカ故ニ、外科手術ニ當リ、耻骨ヲ
 超ヘテ之ヲ刺スモ腹膜ヲ損傷スルノ虞ナキナ
 リ
 右腹膜及ヒ莖膜ノ次ニハ、強剛ノ筋膜マスキユ
 コロト
 ヲ有ス、其纖維ハ、横紋ナク、帯紅茶褐色ニシテ、大
 小不同ニ集束シ、網状ニ聯結シ、乃チ内外二様ノ
 方向ヲ以テ配列セリ、其外方ハ、即チ縦纖維ニシ
 テ膀胱頸及ヒ其前鞅帶ヨリ披撒シ起リ、再ヒ其
 頂ニ至リ、ユラコス附着ノ周圍ニ於テ輻湊ス、其

甲
 マスキユロス、ズ、
 トル、空、シカ

内方ハ環状纖維ニシテ、横行且ツ斜行シ、其數、前
 者ヨリモ少ナク、而テ膀胱頸ニ於テ緻密ノ一束
 ニ集積シ、膀胱括約筋ウニシク
 トルヲ造為ス
 筋膜ノ次ニハ、彈力纖維ヲ雜ヘタル、纖維組織ノ
 一層ヲ具ヘ、密ニ前膜ニ附着シ、稍ヤ厚ク強剛ニ
 シテ、且ツ擴張スヘシ
 裡面ノ粘膜ニユ
 コロトハ、帯白薔薇色ニシテ
 滑澤ニシ、密ニ纖維層ニ附着ス、其内皮ハ、輸尿管
 及ヒ腎盂ノ者ト均シク、數層ノセルヨリ成リ、其
 深層ノ者ハ圓柱状ヲ為シ、表層ノ者ハ、巨大ニシ

テ敷磚状ヲ為ス、而テ頸部ニ於テハ、亦ク僅ノ小葡萄状腺ヲ具備セリ

粘膜ハ、膀胱空虚ナレハ皺縮シ、膨脹スレハ之ヲ展延ス時有テハ、粘膜上、筋膜ノ纖維束ノ配列ニ随

ヒ、網状ノ起腺ヲ顯ハス丁アリ、此状態ハ、尋常尿排泄ノ障礙ニ起因セル、筋膜ノ異常作用ニ歸ス

膀胱ノ頸ヨリ底ニ涉リ、其内面ニ於テ、稍々隆起セル三角形ノ部位ヲ見ルヘシ、之ヲ膀胱三角部

ト稱シ、圓キ細小ノ突起ニシテ膀胱ト尿道

甲 膀胱三角部

乙 ユラト稱シ、圓キ細小ノ突起ニシテ膀胱ト尿道

甲 マスクル、フダ、セ、ウエシクル、タライ、エンゲル

乙 トリス、エリナリ

トノ通孔中ニ突出ス、其基礎ノ兩隅ハ輸尿管孔ヲリテ、イニシス、ヲヨリ成リ、斜ナル裂孔ニシテ、長サ一インチノ八分一ヲ有ス、三角部ノ粘膜下筋組織ハ肥厚シ、屢々膀胱懸壺垂ヨリ、輸尿管孔ニ分涉セル、筋束ヲ呈セリ

尿道

尿道 スラレハ、男子ニテハ、尿及精液ノ通路タリ、其

解剖的ノ關係ハ陰莖ヲ講明スルノ后ニ、宜ク曉解シ得ヘキカ故ニ、爰ニ其說辨ヲ掲ス、生殖器篇

ニ讓ル

婦人尿道 ユレヌラ ヲダ、ハ、其用、唯利尿ノ道路ヲ
 為スノニニシテ、此道、男子ニテハ、陰莖ノ海綿体
 中ヲ通過スレド、婦人ニテハ、其肉様尖ノ海綿体
 分裂スルニ由リ、其中ヲ行渉セス、故ニ唯男子尿
 道ノ攝護部ト、膜様部トニ當ルノニ其長サハ、凡
 ソ一インチ半、其直徑ハ、三四ライン、但シ巨大ニ
 膨脹スヘシ而テ膀胱ヨリ起リ、下前方ニ屈曲シ、
 耻骨弓ノ下ニ進ミ、腔孔ノ直上ニ於テ、前庭ノ基
 礎ノ中央ニ終ル、其進行ノ間腔管ノ前壁中ニ包
 藏サレ、三角韌帶ヲ穿貫ス、其外孔 甲 ハ肉様尖ノ龜

甲
三トス、ユリナリニス

頭后、凡ソ一インチヲ離レ、或ハ外陰部ノ前結合
 ヨリ、二インチヲ去リ、稍ヤ乳頭様ノ隆起ヲ為シ
 テ所在ヲ示ス

尿道ノ粘膜ハ、縦行ノ皺襞ヲ為シ、紅色ニシテ、細
 小ノ葡萄状腺 甲 ヲ具備ス、其内皮ハ、外孔ノ方ニ來

レハ、鱗状ニシ、内孔ノ方ニ行ケハ、膀胱内皮ノ性
 ヲ取レリ、粘膜ノ外方ニハ、許多ノ血管殊ニ靜脈

叢ヲ含有セル、纖維組織ノ一層ヲ具備ス、亦夕彈
 カ及ヒ纖維組織ヲ雜ヘタル、無紋筋纖維ノ一層

ヲ具ヘリ

甲
ランツ、ゾリトリ

圓柱狀ノ物アリテ、層面ト直角ヲ為シ配列シテ
 線状ヲ顯ハセリ顯微鏡ヲ以テ檢スルニ纖維膜
 ト連續セル、纖維ノ間隔アリテ、其内ニ楕圓ノ貯
 器ヲ含ム、其長徑ハ、皮樣層ノ表面ト直角ヲ為シ
 器内ニハ微細ナル顆粒物、核、脂肪球、及ヒ色素顆
 粒ヲ含蓄セリ格爾里加爾氏ノ說ニ據レハ、此諸
 元質ハ、皆十皮樣間隔中ノ貯器内ニ舍セル、一簇
 ノセルノ宿物ナリト
 隨樣質メジユラレストハ、黯赭色ノ琶爾布樣物ニ
 シテ、其性甚タ破碎シ易ク、屢々其内ニ、空窠ヲ目

甲
メジユラレスト

視シ、尋常之ヲ偶然ノ破裂トシ、看做スルニ至レ
 其構造ハ、微細ナル結締織ノ間隔ヨリ成リ、皮
 樣質ノ者ト連續シ、其眼中ニ、細小ノ顆粒物、色素
 顆粒、脂肪球、及ヒ神經中心ノセルニ稍ヤ類似シ
 タル、有核セルヲ含メリ

副腎ノ血管ハ、富饒ニシテ、副腎動脈、及ヒ近隣ノ
 橫隔動脈、腎動脈ノ枝極ヨリ來リ、其質中ニ入レ
 ハ、纖維間隔ヲ通過シ細分シテ、終ニ貯器ノ周圍
 ニ於テ毛細管ヲ造ル副腎ヨリ謝出スル靜脈ハ、
 尋常一幹ニシテ、右ハ、下大靜脈ニ終リ、左ハ、同側

ノ腎静脈ニ終ル水脈ハ、甚々僅ナリ神經ハ、專ラ
 交感神經ノ大陽叢及ヒ腎叢ヨリ來リ、最モ饒多
 ナルヨリ、副腎ハ、神経系統ト関シ、緊要ノ作用ヲ
 ナス者ナラント、推考ヲ起セシニ至レリ、然ラス
 ンハ他ニ、此器ノ作用ハ、全ク知ル可ラス

解剖訓蒙卷之十四終

啟蒙義舎藏版

發兌書肆

大坂心齋橋通唐物町

淺井吉兵衛

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

